

編集後記

長かった夏模様がようやく終わったと思ったら、一瞬の秋を経て、本格的な冬の時期を迎えました。気象庁が公表した寒候期予報（12-2月）では、気温が平年並みまたは高いという確率が高いようですが、実際の推移はどうなるのでしょうか？ 我が国の四季は、もはや俳句の世界だけに限られてしまうのでしょうか。

地球温暖化により、大気に含まれる水分量が多くなったのが原因と考えられますが、局地的な豪雨等による災害は、例年と比べると多くなりました。その被害に見舞われた方々には心よりお見舞い申し上げます。特に、石川県能登地方では、能登半島地震の傷が癒えぬ間に豪雨災害に見舞われるという状況になりました。その早期の復旧・復興が進むことを祈念いたします。個人・地域・行政レベルでの将来に向けた防災対策の底上げの必要性を強く感じた一年でした。

本号の「『おまめのはなし』と乾燥豆を教材とした小学校の授業」では、豆類に対する子供たちの関心が高いことに驚かされました。若い世代の豆類の消費が減っているとの話を伺っていましたので意外でした。若い世代の豆類の消費を増やしていくためには、このような子供たちの関心をさらに引き出すような学校の先生による適切な指導が有効と考えられますが、子供たちが小さい頃から親世代が家庭で豆料理を提供していくことも重要ではないかとも考えられます。お忙しい方もおられるでしょうから、調理済み豆料理と組み合わせれば、「タイパ」とも両立でき食卓も賑やかになるのではないのでしょうか。

今年の秋も体感的にはとても短かったとは言え、収穫の秋、食欲の秋は堪能できました。体重の増加も気にはなりますが、この時期は美味しさの前には自制心も吹き飛んでしまいました。寒い冬には「ぜんざい」や「おしるこ」なども楽しみの一つですが、登録無形文化財となった「菓銘をもつ生菓子（煉切・こなし）」、登録無形文化財となる予定の「手揉み製茶」の組み合わせで、心と身体をゆったりと休ませてはいかがでしょうか？

今年は、ウクライナでの戦闘、中東での紛争など、国際的な紛争の種が増えこそすれ、減ることのない年となりました。また、温暖化の影響としての極端気象や地震災害もあり、落ち着いた年でしたが、来年こそは平穏な年となることを祈念いたします。

良いお年をお迎えください。

（寺田 博幹）

発行

公益財団法人 日本豆類協会

〒100-0011 東京都千代田区千代田1-2-1

日土地内幸町 TEL：03-6268-8627

ビル2階 FAX：03-6268-8628

豆類時報

No. 117

2024年12月15日発行

編集

公益財団法人 日本特産農産物協会

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町

2-15-1 フジタ TEL：03-6689-9428

人形町ビル7階 FAX：03-3663-7525
